



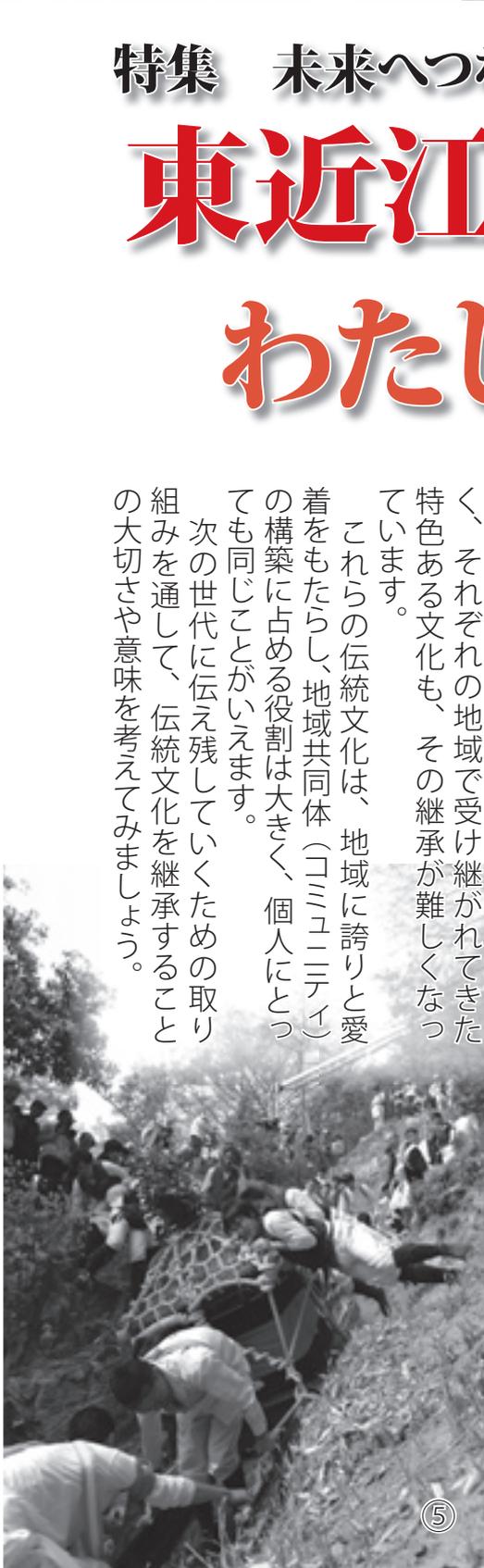
特集 未来へつなぐ文化と伝統

# 東近江らしさを わたしたちの宝物に

近年は、社会や生活様式の変化が著しく、それぞれの地域で受け継がれてきた特色ある文化も、その継承が難しくなっています。

これらの伝統文化は、地域に誇りと愛着をもたらし、地域共同体（コミュニティ）の構築に占める役割は大きく、個人にとっても同じことがいえます。

次の世代に伝え残していくための取り組みを通して、伝統文化を継承することの大切さや意味を考えてみましょう。



## 伝統の継承は未来への種まき



八日市最上踊り保存会  
副会長 武久泰祐さん

尻無町、大森町で毎年4月に行われている最上踊りは、300年以上の歴史をもつ貴重な郷土芸能。江戸時代、山形城主であった最上家が蒲生郡下大森村（現在の太森町）に移

され、領地も減らされましたが、その後幕府の重職に就いたことを祝って地元領民が「おいせおどり」を踊ったことが、最上踊りの始まりといわれています。

現在は五穀豊穡、町内安全を祈願しています。かがり火のもと、扇子を手にゆったりと踊る光景はとても幻想的です。平成17年には山形県の山形城址で、また今年には本市で開催された全国伝統的建造物群保存地区協議会総会で踊りを披露しました。

尻無町では小学3年生以上の男子が踊ります。子どもたちから伝承することで、地域の文化や伝統を次の世代に引き継ぐとともに、さまざまな地域活動の原動力になるのだと思



▲宵宮での最上踊り（尻無町）

ます。6年生にもなると本当に上手に踊ってくれます。子どもたちの成長を見ることが、私たち年長者の何よりの喜びですね。

特に子どもや青少年にとっては、家庭や学校とは違う、年齢や立場を超えた集団の中で、社会性や自発性、公共心をはぐくむ場となっています。そして、地域の人々が協力して取り組む行事からもたらされる地域社会との結びつきは、私たちにとってかけがえのない安心につながるのでないでしょうか。

- ①西市辺裸まつり（市辺町）地上3メートルの梁にくくりつけたマユ玉を奪い合い、五穀豊穡と厄除け祈願を行う祭り。
- ②ケンケト祭り（帯掛祭）（蒲生岡本町）国の選択無形民俗文化財に選択されている。子どもたちが紺の半纏に黒帯を締め、手甲・脚絆をして長刀によるケンケト（長刀振り）を奉納。
- ③ドケ踊り（北菩提寺町）中世の風流踊を伝える貴重な芸能。押立神社の春の例大祭に奉納される。近年は伝承活動の一つとして節分祭でも奉納。
- ④まんどう（市原野町）お盆の送り火・迎え火として行われる。直径1.5メートル程の「上がり松明」のほか大小の松明に点火し、うちわであおぎ燃え尽きるまで続けられる。
- ⑤伊庭の坂下し祭（伊庭町）毎年5月4日に行われ、近江の奇祭の一つに数えられる。織山の山腹から三基の神輿を降ろす神事。

文化ってなんだろう  
さまざまな意味で用いられる「文化」という言葉。その中には、私たちの生活に密着した文化も多くあります。それらは、地域の歴史・風土・産業などの要因によって、そこに暮らす人々が何十年、何百年もかけてつくりあげてきました。しかし、その文化も受け継がれることがなくなってしまうと、人々の記憶は薄れ、元に戻すことは困難となります。新たに生み出す以上の

手間と労力をかけなければ、これらの文化を後世へ伝えていくことはできないのです。【伝統行事】守り育てて、人もつながる 地域に根付いた、数々の伝統

### 生活に溶け込む 文化と伝統

◆文化財・社寺  
本市には、重要文化財や有形・無形の文化財に指定・登録されているものが多くあります。これらを次の世代へ引き継ぐために、地域ぐるみで保存と継承に取り組まれています。

◆生活・行事  
私たちが当たり前のように接している衣・食・住には、ほかの地域では見ることができないものも多くあります。また、国や県から選択無形民俗文化財に指定されている行事もあります。

◆伝説・いわれ  
脈々と受け継がれる歴史の中で、本市には多くの伝説やいわれがあり、特に聖徳太子に関わる伝説は各地に言い伝えられています。一方では子どもたちへの躰、戒めに使われた、「ガオが来るぞ」などの伝説もあります。

**【食文化】  
郷土料理は、食文化を写す鏡**

昔の食卓には、旬の食材を使い、季節にあった献立が並んでいました。

その土地の気候や風土から生まれ育った食文化は、現代生活においても理にかなったものであり、まさに地域に根付く文化そのものです。

しかし、生活が豊かになり、価値観の多様化や外食が増えたことから、昔からの食文化も受け継がれにくくなりました。

私たちが、日本型食生活の良さを今一度見直し、伝統食や行事食にも目を向けることで、真に豊かな食文化の創造が可能となります。

**【生活文化】**

**電気のない時代の暮らしは、  
今に通用するエコロジ―**

電化製品の普及にとともに、昔から使われてきた道具は、私たちの周りから消えていきました。しかし、電気のなかったころの暮らしからは、たくさんの方の生活の知恵が伝わってきます。たとえば「お講箱」(写真①)。地域での講などの集まりには、ご飯と漬物は持参しました。

**食の交流で世代のつながりを**

東近江ハンドシェーク協議会 会長 ますだたかし  
**増田隆さん**



東近江ハンドシェーク協議会では、豊かな自然を利用したエコ体験や農家レストランの構想、農家民宿の普及活動などを行っています。東近江市で学び、食べ、やすらいでもらえるように取り組み、地域の資源を活用することで、地域が元気になってほしいと考えています。

そのなかで、近年あまり作られなくなってきた地元の食文化を発掘しようと“東近江じまん「家庭料理大集合」”を開催。昔から受け継がれてきた料理は、地域の特産物や季節の野菜を生かしたものなど、暮らしの知恵が詰まっています。

過去4回実施し、季節ごとのレシピ集ができました。このレシピが、家庭で郷土料理を作るきっかけとなったり、地元の食材を使った農家レストランなどに活用することで、次の世代にふるさとの味を伝えたいですね。



▲「家庭料理大集合」で出品された冬の味覚  
(上) 柿なま酢  
(下) エビだいこん

**◆第5回東近江じまん「家庭料理大集合！」  
～今回は“おせち”が大集合！～**

今回は、おせち料理や親戚などが集まる時の大皿料理がテーマです。我が家じまんの料理が勢ぞろいします。詳しくはお問い合わせください。

時 12月11日(日)9:30～14:00

場 あいとうマーガレットステーション

一般(試食のみ) = 園先着50人(事前予約可)

¥大人500円、小人200円、幼児無料

★出品者募集中!

園市内在住者(先着50品) 申 12月7日(水)まで

申 園東近江ハンドシェーク協議会(担当:清水)

☎ 0749-46-8100 FAX 0749-46-8288

現代でいうところの「マイカップ」「マイ箸」の考えは、昔からあったのです。

また、玄関の門を入ってすぐにある、川の水を取り入れた水屋は「川戸」(写真②)と呼ばれ、食器を洗うと落ちるご飯の残りを鯉などが食べることで、えさとして残りものが再利用され、川の水質も守る合理的な仕組みとなっていました。

昔の生活文化には、今も通用するエコロジ―の種がたくさん詰まっています。

◀写真①「お講箱」(能登川博物館所蔵)

▲写真②川戸(近江商人屋敷 外村宇兵衛邸)  
川の水を引き込んだ洗い場、鯉が行き来する。

## まちを愛する人の集まりです

特定非営利活動法人  
金堂まちなみ保存会  
理事長

にしむらみのる  
西村實さん

金堂まちなみ保存会は、重要伝統的建造物群保存地区※1に選定された歴史と文化と伝統ある五個荘金堂町を愛する人の集まりです。歴史的環境保全についての認識を深めて地域に根ざしたまちなみの保存や伝承にかかる事業を行っています。

活動の拠点は、生きがいの場、学びの場、おもてなしの場として平成20年11月に開館した「金堂まちなみ保存交流館」です。地域の人が集まるサロンとして、建物の新築・改築などの相談窓口として活用しています。素晴らしい景観を守りつつ、現代のライフスタイルに合った住みやすいまちづくりをめざしています。



※1 平成10年12月に五個荘金堂町が、重要伝統的建造物群保存地区に選定  
※2 今年5月に開催された伝統的建造物群保存地区協議会研修会で説明する西村理事長



▲地域の交流やおもてなしの拠点となっている金堂まちなみ保存交流館



▲地域みんなで助け合う除雪作業

### 【地域文化】 お互いさまの、地域の助け合い

東日本大震災では、諸外国から「未曾有の困難の中でも社会の秩序がよく保たれている」と、日本人のマナーへの称賛の言葉が多く上がりました。  
互いに助け合い、苦難を乗り越えようとする考え方は、日本文化のもつ品格と価値といえます。近年では、『ボランティア』という言葉に置き換えられていますが、昔から行われてきた、共に助け合う「相互扶助」の考

### 【有形文化】 失えば二度と戻らない、 町並みや景観、文化財

え方によるものです。  
現代的な暮らしと昔からの伝統を守ることの共存は決して簡単ではなく、相当な努力を必要とします。無形の伝統文化はもろろんのこと、私たちは形あるものを次世代に残すことにも取り組まねばなりません。  
人の命より長い年月を経たこれらの文化財は、二つとない存在であり、失ったり、壊してし

### 息づく文化を 私たちの『だからもの』に

地域に根付く文化は、東近江らしさ、すなわち私らしさであり、文化を継承するということは、これらのらしさを『だからもの』として守り育てる営みだといえます。  
そして、その取り組みによって培われる絆は、私たちのまちづくりの基盤ともなるのです。  
市民のみならずと行政がともに手を携えながら、地域に受け継がれてきた『だからもの』の持つ本来の力を発揮させていきましょう。

問文化財課  
☎0748-2415677  
IP0505180115677